

先代「しらせ」の概要について

<沿革(あゆみ)>

- 「しらせ」は昭和56年3月5日起工、同年12月11日進水式を迎え、昭和57年11月12日竣工し防衛庁(当時)へ引き渡され就役。
- 1年間の試験・訓練航海などを実施した後、昭和58年11月14日に第25次南極地域観測隊を乗せて南極観測支援行動の処女航海に出発。
- 「しらせ」は昭和58年以降、平成19年の第49次南極地域観測隊まで、25回にわたり南極航を果たしたが、厳しい南極氷海での奮闘により老朽化が進み、平成20年7月30日に退役。

<特色>

- 基準排水量11,600トンは「ふじ」(5,250トン)の約2倍。
- 3軸ディーゼル電気推進式で軸馬力3万馬力、航続距離2万5千マイル、貨物積載輸送量最大1,000トンで、厚さ1.5mの定着氷を3ノットで連続砕氷可能。輸送用ヘリコプター(S-61A)2機搭載。



(氷海を航行する初代「しらせ」)

<実績>

- 「しらせ」の高い輸送及び行動能力を活用して、基地の拡充、それによって可能となる大型設備や大電力を必要とする基地観測の高度化。
- 内陸奥地での氷床深層掘削のための拠点建設と維持、セールロンダーネ山地調査のためのあすか基地建設などが実施され、我が国の南極観測に大きな転機をもたらす。



(横須賀地方総監部係留中の初代「しらせ」)